

(様式3)

事業所名 グループホーム歩歩清風

ユニット名 しだれ栗・福寿草

作成日: 令和 3年 12月 13日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	高齢者虐待防止の徹底において常に反復学習を行っているが、職員の知識・理解度・価値観の格差が著しく、「不適切なケア」への認識が乏しい職員がいる。	「不適切なケア」の段階で「虐待の芽」を摘み取るべく、全職員の意識を高める。	・定期的に「虐待防止チェックリスト」を活用し職員個々の現状を把握して、拳がった「不適切なケア」はチーム全体で話し合い解決する。 ・改善の見られない職員は個別に学習指導する。	3ヶ月
2	12	入職者が中々定着せず常に人材不足の窮地に立たされている。また、現役で働く定着職員の高齢化が今後の課題でもある。	人材定着に繋がる「働きやすい職場」の環境作りをする。	・全職員が新人職員に向けて懇切丁寧に統一したケアを教える事ができるように意識を持つ。 ・何でも相談し合える雰囲気作りをする。 ・就業条件(給与・休日数等)は法人と協議する。	6ヶ月
3	20	コロナ禍でご家族との面会が制限される中、職員もご家族と直接会って話す機会が減少してしまっている。施設からのお便り発送時にご意向等の返信用紙を同封するが、返信して下さるご家族は少ないのが現状である。	慣れ親しむ人々や場との関係が途切れないように新たな発想で心の密を創り出す。	・施設発信のお便りだけでなく、利用者様自らが関わられる手紙等を工夫して作り大切な人に贈る。 ・ご家族からご意見やご意向を選択方式にしてみる等の工夫やご家族から利用者様宛のお手紙をこちらから用意する等で関係性を築く。	8ヶ月
4	26	担当職員発信によるチームでの利用者様個別カンファレンスは遂行されているが、職員目線の問題点に固執してしまい利用者様本位の「思い」が汲み取られていない。	利用者様の思いを汲み取った「あるべき姿」が見える支援に繋がるカンファレンスを行う。	・利用者様の今だけを見ず、過去を知り未来を見据えた目線で考えチームで話し合いを行う。 ・利用者様の「したいこと」「こうなりたいこと」の本当の思いを探る。	12ヶ月
5	35	防災訓練を定期的に行っているが、毎回全職員での参加には至っておらず防災意識には個人差がある。また、高齢者施設等業務継続計画(BCP)策定に向けては未着手である。	有事の際は、全職員が迅速且つ的確な行動が執れるようにする。	・定期的な防災訓練の他に「ミニ防災訓練」を毎月行い、全職員が関わりを持つようにする。 ・BCP策定については法人指導の下、自施設に合ったものを作り実践的な訓練へと繋げていく。	24ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。
複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成してください。